



# 37<sup>TH</sup> INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON COMBUSTION

Dublin, Ireland: 29 July - 3 August 2018



第37回国際燃焼シンポジウム特設サイトより  
<http://www.combustionsymposia.org/2018/home>



2018.07.29~8.3  
Yamaguchi University  
D2 Yoshida Yasuko  
M1 Uneyama Ryo



# 37<sup>TH</sup> INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON COMBUSTION

Dublin, Ireland: 29 July - 3 August 2018

## 第37回国際燃焼シンポジウム

目的：燃焼に関するアイデアや知見を共有する2年に1度開催される学会

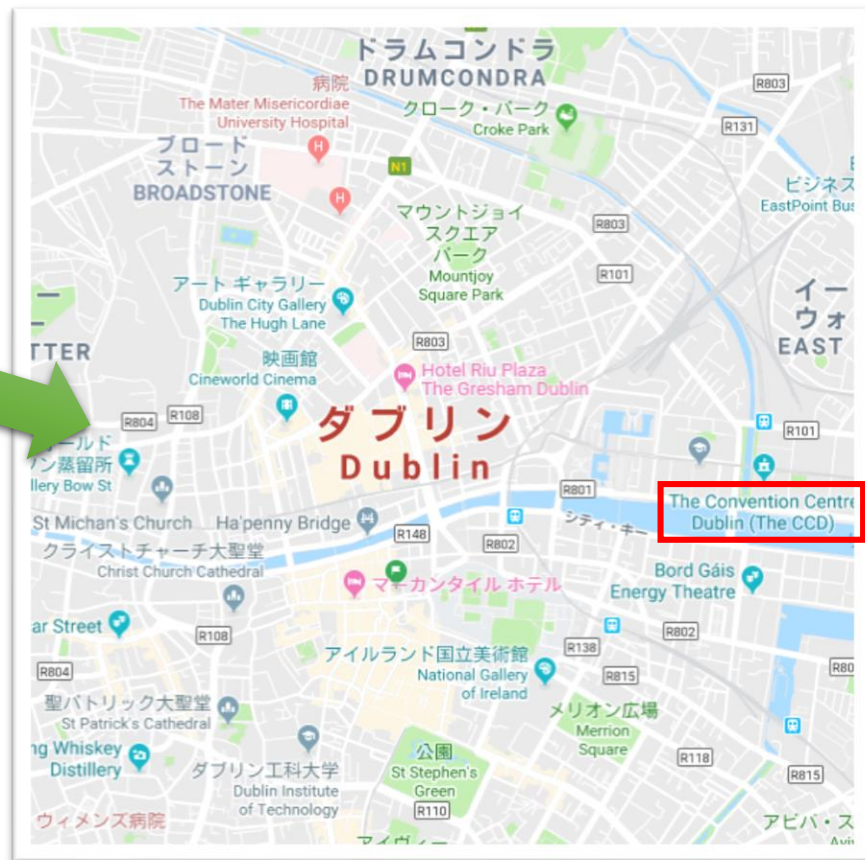
アイルランドの首都ダブリンで7月29日から8月3日の期間で開催されました！

今回は発表件数が多く、同時刻に10個のセッションで発表が行われており、たくさんの研究者でにぎわっていました。

吉田は口頭発表，宇根山はポスター発表で参加してきました。

# 開催地 ダブリン (アイルランド)

アイルランドの首都  
ダブリンはリフィー  
川の河口に位置して  
おり、英語名の「ダ  
ブリン」はゲール語  
で「ダブ・リン(黒い  
水たまり)」が由来で  
す。夏は涼しいので  
過ごしやすく、雨が  
降ることが多かったです。



© Can Stock Photo - csp15513264



←クローバーとハープ  
はアイルランドのシン  
ボルみたいです。

→ダブリンといえばギ  
ネスビールが有名！



# フライト 羽田 → ドーハ → ダブリン



↑  
かっこいい

←ドーハ・ハマド国際空港の様子



←機内の席モニター  
映画，ゲームなどで時間を  
つぶします



# 学会会場 The convention center Dublin



## 37<sup>TH</sup> INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON COMBUSTION

Dublin, Ireland: 29 July - 3 August 2018



第37回国際燃焼シンポジウム特設サイトより

<http://www.combustionsymposia.org/2018/home>



The Convention Center Dublinのサイトより  
<https://www.theccd.ie/view-the-venue/venue-photo-gallery>



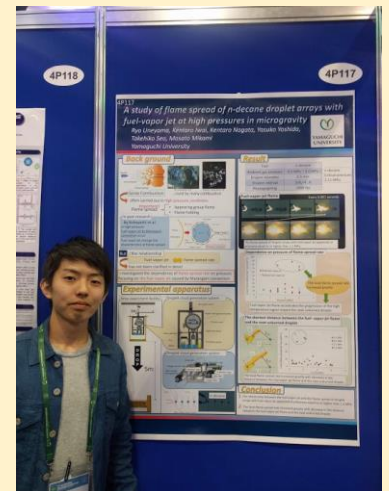
# ポスター発表 宇根山

今回は私にとって初めての国際学会でした。私は海外旅行が趣味で、何度か海外に訪れたことがありましたが、今回の海外経験は今までとは全く違うものになりました。旅行などで海外に訪れたときは、分からないことをあやふやにしたまま雰囲気現地の人と話すことが多かったのですが、今回のポスター発表では自身の研究を相手にわかりやすく伝えることが重要であり、伝わらない場合には徹底的に伝える努力をする必要がありました。事前に30秒で研究内容を伝える練習をしたり、わかりやすく編集した実験の動画などを製作し、ポスター発表に備えてはいましたが、思い描いていたものとは異なり“英語でわかりやすく伝える”がいかにか難しいか痛感しました。言葉の壁に真正面からぶつかり、正直少しショッキングではありましたがとても貴重な経験となり、語学への意欲も向上しました。

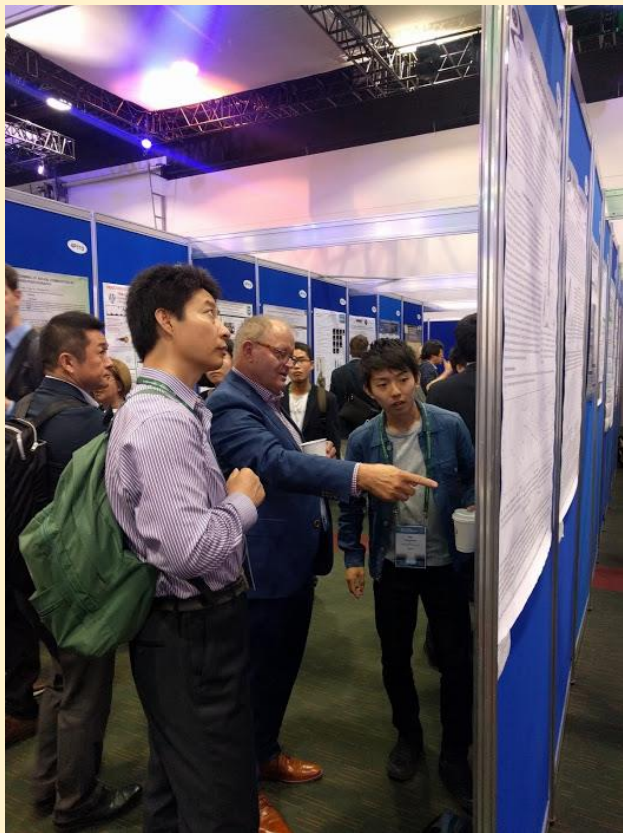
それと印象的だったことですが、若手研究者による懇親会で他大学の学生たちと話したとき、彼らは自分の研究に誇りを持っていてそれを楽しんでいるのがひしひしと伝わってきました。それが個人的にはすごく刺激的に感じました。

学会に参加することで新たな発見や感じ方の違いがたくさんあると思うのでぜひチャレンジしてみてください。

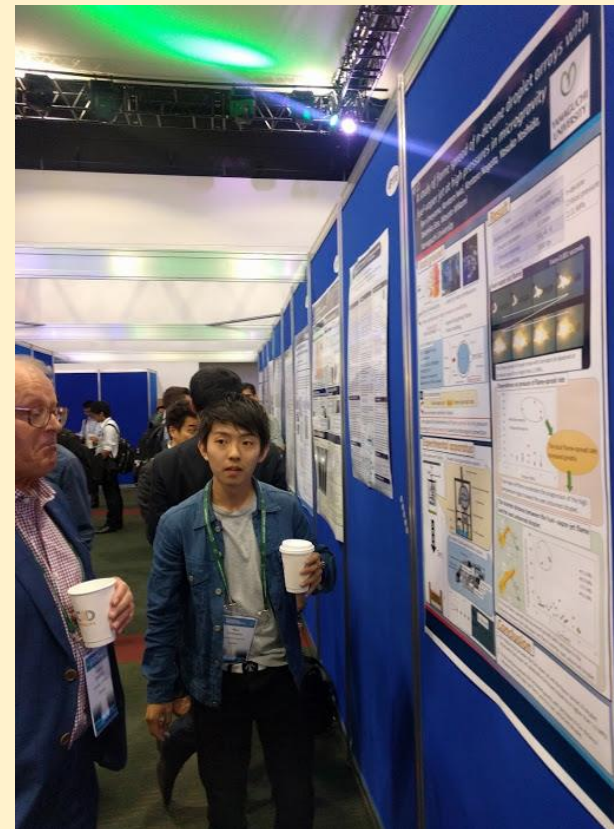
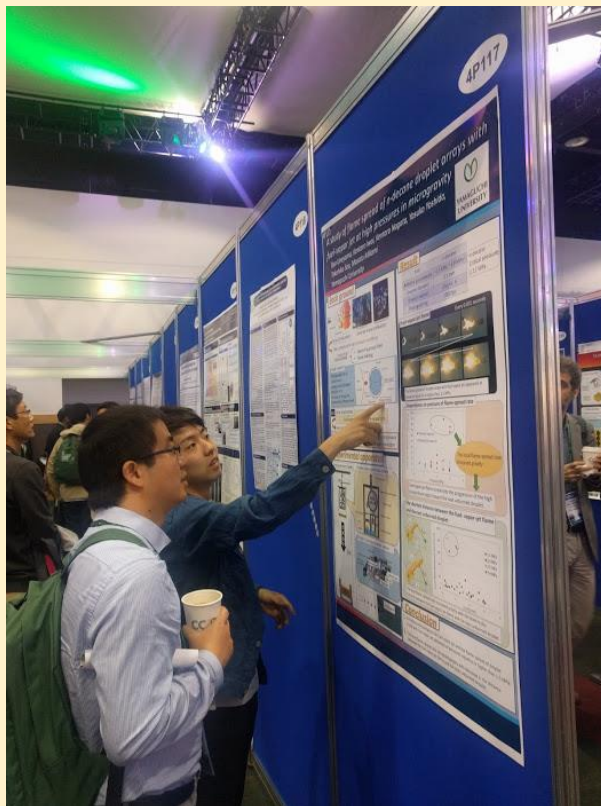
ご指導いただきました三上先生、瀬尾先生  
アドバイスを頂いた研究室のみなさん  
本当にありがとうございました。



# ポスター発表の様子 宇根山



↑ 聞き取るのに必死です



← ↑ 説明中です

# 口頭発表 吉田

【準備】この学会に参加するのは3回目になりますが、初口頭発表での参加でした。口頭発表を行うためには、論文を投稿し採択される必要があります。2017年の7月に軌道上実験が終了してからたくさんあるデータをどのようにまとめれば重要な結論が浮き彫りになるかを悩みました。そこで、論文作成までに国内外のシンポジウムに2度参加し、段階を追うごとに改良して論文の結論となる内容を固めていきました。なかなか書き進まず、正直投げ出したくなる場面が何度もありましたが、研究班のメンバーや先生にアドバイスやサポートをしてもらいながら、なんとか完成させることができました。その後、学会参加の直前に論文が採択されたとの連絡が入り、安堵することができました。

【発表】あまりの緊張で、発表開始直後にセリフが飛んでしまい、一瞬焦りましたが、たどたどしくなりながらもなんとか発表を終えました。質疑応答では、とても有名なW先生から想定外の質問をいただき、YesかNoで答えてと言われ、Yesと答えましたが、間違えた答えをしてしまいました。また、座長からも質問をいただきましたが、答えられなかったはずの質問に答えることができずに時間を迎えてしまいました。あがり症だけでなく自身の英語力に大きな課題を感じました。発表本番では散々でしたが、休憩時間に複数の海外研究者の方と話す機会があり、スライドを見せながら研究説明をしました。たくさん質問をいただき、時間がかかりながらも答えました。最後には話をした全員から面白い研究だったとの言葉もいただけて、心のモヤモヤを少しだけ解消できました。

これまでにたくさんの方のアドバイスやサポートをしてくれた研究室のメンバーを始め、ご指導いただいた先生方に、この場をお借りして感謝申し上げます！



# 学会イベント①

## *Women in combustion*

女性研究者による懇親会



Women in Combustionでは女性研究者が集い、立食形式でランチを楽しみながら交流します。ふるまわれた料理はどれも女性の心をくすぐるようなかわいい見た目のものが並んでいました。私が交流した海外の女性研究者の方々は皆Ph.D.で、お互いについてや自身の研究についてたどたどしい英語を話しながらもおいしい料理とおしゃべりを楽しみました。

# 学会イベント②

## *Young researcher mixer*

若手研究者による懇親会



Young Researcher Mixerでは、若手研究者が集い、砕けた雰囲気のアリッシュパブで交流を図りました。ここでは日本語での交流が主になってしまいましたが、アメリカの大学に在学している日本人の方との出会いが印象的でした。お互いの自己紹介から派生して、政治や歴史に関する話を日本とアメリカの双方の観点から聞くことができるとても興味深かったです。終わった後も、別のお店に移動し、ちょっと遅くまで会話を楽しみました。

# 学会イベント③

*Banquet* 会食のようなものです



バンケットでの食事



Banquetでは、隣の席のオーストラリアの研究者の方々と交流しました。今度、日本で開催される学会に参加されるそうで、日本について質問をいただき、お互いの研究についてもお話しました。お互いビールはギネスが好きで意気投合しました！緊張しましたが、おいしい料理をいただき、楽しい時間を過ごしました。

# おまけ ～観光編～

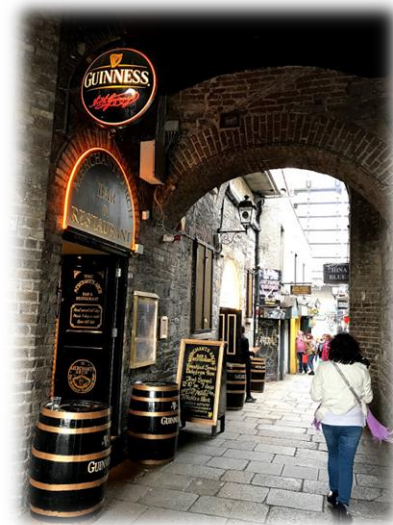


↑元祖アイリッシュバー  
テンプルバー  
音楽が鳴り響いてとても  
賑やかでした。

トリニティカレッジ図書館→  
ハリーポッターに出てきそう  
でした。



大道芸人が  
いました→



←路地

# おまけ ～食事編～



←オイスター  
初めてワインビネ  
ガーで食べました。

ギネス→  
格別に美味しいで  
す。



↑ブルスト  
豚の血で固めた豚  
の臓物の詰め物。

アイリッシュ→  
シチュー  
羊肉を使うのが  
特徴です。



←アイリッシュ  
ウィスキー入りア  
イス

# おまけ ～ダブリン編～

ダブリンはとにかく日が長い！



←21時です（笑）

ダブリンは消費税が高い！

23%だそうです…

でも食料品や子どもの衣糧品や書籍も0%！

ありがとうございました



2020年はオーストラリアのアデレードで開催予定です！！  
絶対に良い経験ができるので、チャンスのある方はぜひ挑戦  
してみてください！